

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語／現代文B】

#### 1. 対象 普通科2年〇組(計〇人)

普通科の2年生。クラス全員が国公立大学への進学を希望している。授業に取り組む姿勢は前向きである。活発に発言する生徒が多数いる一方で、真面目で慎ましやかな性格の生徒も混在している。対話的な授業を行っているが、どの生徒も対話を通して考えを深められてはいない。

#### 2. 単元名「批評することを通して、自分の考えを深める。－働かないアリに意義がある－」（全5時間）

#### 3. 単元目標 文章を読んで批評することを通して、自分の考えを深めたり、発展させたりする。

#### 4. 本時の目標

- ・文章を読んで批評することを通して、自分の考えを深めようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・文章を読んで批評することを通して、自分の考えを深める。（読む能力）（指導事項ウ）
- ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにする。（知識・理解）（指導事項オ）

#### 5. 授業展開

##### 解決したい課題や問い

あなたはとある会社の社長です。計100人の社員がいますが、働き方で大きく3グループに分けられます。Aグループの20人は非常に生産性が高いです。Bグループの60人は生産性が中程度です。Cグループの20人は生産性が著しく低いです。より良く、より長く会社を運営していくためにどうすればいいでしょうか。

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
教科書本文に肯定的な立場	教科書本文に否定的な立場	教科書本文に一部肯定（否定）的な立場
想定される活動	想定される活動	想定される活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社のことを考えると組織に余裕がなければいけないから、Cグループの層が必要である。Cグループの良いところを探す。</li> <li>・Cグループが「働きたいのに働けない」状態で有るか確かめる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間とアリは違うから、能力が低いCグループは会社に利益をもたらすとは限らない。</li> <li>・生産性が低いなら会社のためにならない。長く存続するためには競争力をつけなければならない。そのために転職させるか、教育し直したほうがよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社に余力は必要であるが、生産性のCグループがいることでAグループの意欲が低下することも考えられるから、生産性以外の能力を身に着けるように促す。</li> </ul>

##### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

###### 前時

問いについて率直な意見をまとめる。

人間とアリの共通点と相違点をまとめる。

15段落の筆者の意見について肯定的な立場、否定的な立場、一部肯定（否定）の立場をそれぞれの生徒に割り当て、その視点から本文を読み直し、問いについて考える。

###### 本時

前時の振り返り。（全体、個人）【5分】

グループで問いについて考える。（グループ）【20分】

グループで考えたことを発表する。（全体）【20分】

問について本文を読んで考えたことを踏まえてまとめる。（個人）【5分】

###### 次時

今までの活動を踏まえて考えをまとめる。

今回学んだことが他のどんな場面で役に立つか考える。

## 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

筆者の言う通り、現在の社会は効率の良さを追求しすぎて息苦しい。結果的に過労死などの社会問題が発生している。会社の利益ばかり考えるのではなく、生産性の低い社員の良いところを見つけてそれを生かしていくような多様性のある会社になるように社内の空気を変えて行ったほうがよい。

アクシデントに対応するための余剰人員はアリと同様に必要不可欠であるが、アリと違って人間は感情や知性があるため、余剰人員すべてが他の社員と同じ目標に向かって活躍する場があると仮定するのは難しい。また、生産性の高いAグループの意欲を削ぐことにも繋がりがねない。Cグループの活躍できる場所に転勤などをすすめるか、教育をしてなにかの分野で生産性を高めるように成長させていくべきだ。

## 育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・教科書本文の語句を正確に理解し読解している。</li></ul>
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の主観だけでなく、別の視点で本文を再読している。</li><li>・視点を変えれば、考えも変わることを理解し、本文や級友の意見を聞くことができる。</li><li>・分かりやすく論理的に説明することができる。</li></ul>
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"><li>・教科書本文自体が絶対的に正しいものではなくて、視点を変えれば批正する対象になることもあると認識するようになる。</li><li>・互いの立場を尊重しながら議論を進める事ができる。</li></ul>

## 授業実践振り返りシート

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	Aグループ、Bグループ、Cグループ全員が入ったチームを何個か作って、仕事を与えて、連帯責任にして協力してやってもらう。	人間は働きたくて働いているわけではないから、Cがいなくなっても、ABだけになっても、余裕があれば怠ける人は出てしまい、仕事ができるABの中で怠ける人がでると利益が下がる。そうなるならば、もともと働かないCを入れておいて、ABの人が全員働いた方が利益は上がる。緊急事態にも対応できるので会社は長く存続する。
Bさん	仕事を分担する。全てのグループに同じ仕事を割り当てたら生産量に差がでるから、それぞれの生産性に合った仕事を割り当てる。全体でなくそれぞれのグループ内で競争させる。	Cは生産性が低いというだけでABに比べて能力で劣っているとは言いきれない。全員に同じ仕事をさせたら差が出るのは当然だから、それぞれの能力に適応した仕事を割り当て、分業化すれば会社も長く存続する。
Cさん	ABグループの給料を上げるため、Cグループをリストラし人件費を下げる。ABの生産意欲向上。	<p>(Cは緊急時に必要な余力となるという意見に対して) ABで十分対応可能ではないか。Cは対応しきれぬのか。</p> <p>(Cは思わぬ能力を持っているのではないかという意見に対して) 生産性を高める能力を持っているのであれば平常時に発揮できるのではないか。それができないのであれば、それは果たして必要な能力なのか。</p> <p>(Cを切り捨てても2:6:2に戻るという意見に対して) 戻ったとしても以前の2:6:2の比率より上位のものになっているのではないか。</p>

授業設計の振り返り	
<b>解決したい 課題や問い</b>	本文に沿って考えるために、シンプルな問いを設定したが、「生産性」などの用語をもう少し厳密に定義した方が対話しやすい。語句の共通理解が不十分なため話し合いにずれが生じている班もあった。
<b>考えるための材料</b>	生徒が複数の視点を持つために、肯定的な立場と否定的な立場の両方を経験させることも必要かもしれない。最初から肯定的であった生徒に肯定的な立場を割り当てたときに考えが深まらないものもいた。
<b>対話と思考</b>	問いについての話し合いを行う時間が不十分なため、話し足りない様子の生徒が多かった。 自分の意見を曲げない生徒に対して対話によって多面的な考え方を持たせることができなかった。
<b>学習の成果</b>	この授業を通して考えたことを、実生活で生かすという視点に立つと、終始自分の意見を曲げない生徒は逆に自分の意見を強固にしてしまう可能性がある。そういった生徒が、より具体的な場面と複雑な条件設定において、複合的に物事を考えられるかをもう少し試した方がよい。

(1枚に収まるように記述してください。)

出典：

